令和7年度

市長施政方針

令和7年2月20日

令和7年度 市長施政方針

(はじめに)

令和7年第1回長久手市議会定例会開会にあたり、新年度における施政方針、当初予算案の主要な施策について、概要及び所信の一端を述べさせていただきます。

私が令和5年9月に市長に就任してから、1年5か月が経過いたしました。この間に、選挙での公約も踏まえ、既存事業のすべてを見直す「事業総点検」に着手いたしました。これまでも市として、行政改革や行政評価といった既存事業の見直しに取り組んできたところですが、社会情勢の変化や本市の財政状況を踏まえ、抜本的に見直しを進めているところです。令和7年度も引き続き、私がリーダーとして職員一丸となり事業総点検を進め、今の市民ニーズに合った効率的・効果的で持続可能な行財政運営に道筋をつけてまいります。

令和7年度予算は、子どもから高齢者まで市民の暮らしとチャレンジを支える環境を整えていきたいと考えています。子どもたちが過ごす保育・教育環境の充実や、子育てと仕事が両立できる環境の整備、また、高齢者の方がいきいきと自分らしく暮らすための健康づくり事業や、市民が参加・活躍する場づくりなどに重点的に取り組んでまいります。これらを受け、当初予算のテーマを「市民の暮らしとチャレンジを支える予算」としました。そして引き続き、「見える、届く、変わる」の3つの基本姿勢に基づき、積極的にまちへ出て市民と対話を重ねながら、市民目線での市政運営を進めてまいります。

(新年度予算の見込み)

それでは、本議会に提出しております令和7年度当初予算案について説明いたします。

まず市の財政運営全般について申し上げますと、近年の物価高騰や人件費の上昇、さらに、国主導の政策の一部が普通交付税措置となり、財源が手当てされないことで生じる経費の増加といった影響が重なり、厳しい予算編成となりました。

一般会計歳入については、賃金単価の上昇や緩やかな景気の回復によって個人所得の増加が期待できることから、昨年3月に策定した中期財政計画と比べても、個人市民税を中心とした市税全体の伸びを見込んでいます。

次に歳出については、毎年のように使う固定的費用が財政運営を圧迫しているため、令和6年度から事業総点検に着手し、経費削減の取り組みを進めています。しかし、人件費、扶助費、公債費といった義務的経費の増加が続いており、今年度はさらに、物価の高騰に伴う各種調達品や工事等の単価の上昇、制度改正による児童手当の拡充や、新型コロナウイルスワクチン・帯状疱疹ワクチンの定期接種化、住民情報システムの標準化対応といった国の政策による費用の増加も加わり、経常的な経費の増加が顕著になっています。

一方、令和7年度には臨時的経費として、文化の家特定天井の改修工事や古戦場

公園で整備が進むガイドンス施設で展示する展示物の制作、古民家移築工事、児童数の増加に伴う東小学校の教室等改修工事などを予定しています。市の魅力を高める事業や、市民の安心・安全のために必要な事業は、国庫補助の確保や地方債・基金の活用によって、事業内容を精査しながら進めていきます。

以上のような状況を反映した令和7年度の予算規模は、一般会計が262億5,000万円で対前年度比25億6,000万円(10.8%)の増額となりました。これは、児童手当や放課後等デイサービス費を始めとした扶助費で対前年度比13億7,000万円余り、住民情報システムの標準化対応や、給食の賄材料費などで物価高騰の影響を受けた物件費で対前年度比5億円余りの増加があったことが主な要因となっています。また、一般会計に5つの特別会計と1つの企業会計を合わせた予算総額は、およそ377億5,000万円で対前年度比28億2,000万円(8.1%)の増額となっています。

市の財政運営をとりまく環境は厳しさを増していますが、私の公約である令和6年度に開始した高校生の通院費の無償化をはじめとする、子育てを支援する事業や、行政の支援が必要と考える事業を積極的に推進していくことで、皆様に「長久手に住んで良かった」と実感していただけるようなまちづくりを進めていきます。

それでは、令和7年度当初予算の主な事業についてご説明申し上げます。

(子どもがすくすく育つまち)

国は子どもに関する政策を総合的に推進するため、令和5年4月に「こども基本法」を施行し、子どもに関する政策の立案、実施を担う機関として「こども家庭庁」を発足させました。本市としても同法の目的を達成すべく、令和6年度に新たに子ども政策課を設置し、本市における子育てニーズや課題等を調査してきたところです。今後は、令和7年度からの2か年で、子どもの権利を守り、社会全体で子どもの成長を支えることを目的とする「(仮称)長久手市こども条例」を制定し、さらに、国の「こども大綱」及び「愛知県こども計画」を勘案した「(仮称)長久手市こども計画」を策定します。

加えて、親が日中仕事で不在となる場合に、小学生の子どもが授業後に引き続き学校や児童館で過ごせないかというニーズが高まっている状況を受け、遊びや学習等を行う「放課後児童クラブ」について、西小学校区の「放課後児童クラブ」の実施場所を西児童館から西小学校に移し、定員を増やします。さらに、放課後の学びや体験の場として参加することができる「放課後子ども教室」についても、市が洞小学校区に新たに開設することで、多様な保護者のニーズに対応していきます。

他にも、学校関連の施策で申し上げますと、現在、西小学校において実施しているプール指導の民間委託について、令和7年度からは北小学校と東小学校にも対象を拡大します。

また、子育て中の保護者が抱える様々な悩みを聞く「地域子育て相談事業」につい

では、利用者の相談機会をできるだけ増やし、利用しやすい仕組みとなるよう、令和7年度からは、身近な公共施設やショッピングセンターなどへ市内子育て支援団体が出向き、相談窓口となるアウトリーチ活動を新たに行っていきます。

(高齢者に優しいまち)

令和2年に実施された国勢調査によると、本市は全国で最も平均年齢が若いまちであり、現在の高齢者数は10,322人、高齢化率は17.2%と低くなっています。ただ、今後の高齢者数の増加を見ると、令和2年から令和22年までの20年間で、65歳以上人口は1.6倍、介護リスクの高い75歳以上人口は1.7倍になると見込まれています。

令和6年3月に策定した第9期の高齢者福祉・介護保険事業計画では、基本目標の1つに「いくつになっても元気でいきいきと輝ける健康のまちをめざします」と掲げていることに基づき、介護予防の分野において、理学療法士などの専門職が、支援の必要な状態にある高齢者を短期間に集中して支援することで、生活機能の改善を図る取組を進めていきます。

本計画は介護保険の保険料の基本資料となることから、3年ごとに見直しすることになっており、次の改定を令和9年に予定しています。現計画を推進しながらも、次期計画に向けて、本市の高齢者の皆様の状況等を的確に把握し、市が取り組むべき高齢者福祉施策や介護保険事業の方向性を定めるために、令和7年度から2か年かけて策定業務の委託事業を実施します。

また、オーラルフレイル対策を進めていくため、70歳以上の方には、令和7年度から従来の歯周病検診に追加して、口腔機能検査を実施します。市民へオーラルフレイルについて周知し、早期に対策を進めることで、いくつになっても元気で過ごせる健康づくりを後押しします。高齢者の皆様をはじめ市民の足として利用いただいているNーバスについても、より利便性を高めることを目標に、大同大学とともに令和9年度の路線見直しに向け、利用状況の調査・研究を行っていきます。

併せて、東部地域における新たな移動手段として、インターネットなどでの乗車予約により運行する「デマンド型交通」の導入を検討していますが、令和6年度に引きつづき令和7年度も実証実験を行い、地域の皆様のニーズに応えることができる公共交通ネットワークの構築を目指し、市内の豊田中央研究所とともに、利用状況の調査・研究を行っていきます。

(誰もが希望をもてるまち)

本市では、様々な分野で市民活動が進んできています。本市は平均年齢の若いまちですが、アクティブシニアの皆様が中心になって、地域でこうした皆様の活動がさらに活性化するよう、市内で活動する団体の新たな事業や、これまでの活動の拡大を支援する補助金制度をつくり、市民の活躍・チャレンジを応援し、市民が主体となった

まちづくりを進めていきます。

また、病気、障がいなど様々な理由により働きたくても働くことが難しい人(働きづらさを抱える人)からの相談が増加していることを受け、令和6年度に障がい者自立支援協議会が「就労支援モデル開発プロジェクト」を立ち上げました。令和7年度も引き続き地域の事業者の皆様と協働しながら、働きづらさを抱える人の就労による社会参加のきっかけづくりを行っていきます。

加えて、障害者基本法に基づき市町村に策定が義務づけされている「障害者基本計画」について、本市では「障害福祉計画」、「障害児福祉計画」とともに「ながふく障がい者プラン」として策定を進めてきました。令和6年3月には中間見直しを行ったところですが、計画期間が令和8年度までとなっていることから、本市が障がいのある人にとって、より暮らしやすくなるよう、令和7年度から2か年かけて次期計画を策定します。

(文化芸術・スポーツのまち)

本市には、国指定史跡長久手古戦場をはじめとする史跡が点在しています。現在古戦場公園で整備が進められているガイダンス施設は、史実における「小牧・長久手の戦い」の歴史的な価値を広め、市内に点在する国指定史跡を巡るフィールドミュージアムの拠点施設とします。引き続き、ガイダンス施設建設工事を実施するとともに、令和7年度は施設内で展示する展示物の制作を行います。合わせて、市内に現存する最古級の鳥居建て形式の古民家を同公園内に移築するとともに、文化財としての価値を損なわないようにするため、国登録有形文化財の登録を目指します。

また、文化の家は特定天井の改修工事のため、本年の1月から、アトリビング棟は約1年間、ホール棟は約1年半の間、休館することとなり、利用者の皆様には大変ご迷惑をおかけしているところですが、中央図書館や文化の家は、完成から30年近い年月が経ち、様々な箇所での老朽化が進んでいる状態です。このことから、利用者の皆様の安全や利便性の確保を目的とした改修工事を今後計画的に進めるために、それぞれの施設で設備等の修繕計画の策定を行います。

なお、文化の家の改修工事による休館中は、学校や児童館、福祉施設へのアウトリーチ事業に加え、市内の様々な場所を活用して、コンサートや演劇、ワークショップや展示会などのイベントを開催いたします。この機会に、まち全体を文化の家と捉え、地域の皆様へ、より身近な事業を実施していく予定です。

その他にも、令和6年度には、6年ぶりに姉妹都市であるベルギー王国ワテルロー市を青少年訪問団の子どもたちと訪問し、交流を深めてまいりました。令和7年度は、本市にワテルロー市の訪問団をお招きする番になります。市内にバナーを設置して、市全体で歓迎ムードを演出するとともに、ホストファミリーの皆様と一緒に、ワテルローの子どもたちに日本や本市の文化や食生活等について学ぶ機会を提供していきたいと思えます。

そして今年、愛知万博から20周年を記念して、愛・地球博記念公園を会場に「愛・地球博20祭（あいちきゅうはくにじゅっさい）」が3月25日から185日間にわたって開催されます。本市は5月17日、18日の両日に歴史や文化を伝える企画を出展し、20年前の愛知万博を思い起こさせる音楽や国際交流のイベントを実施します。

（自然環境を大切にすまち）

選挙時の公約にも掲げておりますが、本市を花いっぱいすまちにするのは、私の希望であります。

令和6年度は田原市の御協力により、市役所庁舎南側の花壇に多くの花を植えることができ、花壇に面する道路を通行される方々へ心温まるひとときを提供できたのではないかと考えております。この春も、トヨタ博物館から寄贈いただいたチューリップが花を咲かせる予定です。令和7年度からは、個人、法人・団体からの協賛を受けてスポンサー花壇を設置し、意欲のある方々にサポーター制度によって維持管理をお願いしていく予定です。引き続き、市民の皆様が、まちで花に触れる機会が増えるよう、施策を展開していきます。

また、小さい子どもから高齢者まで、多くの方々にご利用いただいている市内の公園について、整備から長期間経っているものや、バリアフリー化が進んでいないものが複数あることから、令和5年度に策定した立地適正化計画に基づき、市内公園のうち9箇所の長寿命化とバリアフリー化に取り組んでまいります。令和7年度においてはまず、そのための基本計画を策定する委託業務を行っていきます。

他にも、現在、地域の皆様とともにその跡地利用についての検討を進めている「旧香流苑」の敷地に関して、引き続き安全に撤去工事を実施していきますが、市有地として残す一部の緑地については、今まで意見交換会で積み重ねてきたご意見を踏まえながら、令和7年度については、緑地再整備に向けた詳細設計を行っていきます。

（安心安全なまち）

能登半島地震から1年以上の年月が経ち、本市からも引き続き復興支援のための職員を派遣しているところではありますが、例年発生する台風や地震への備えは、日本全国の自治体にとって重要な課題の一つとなっています。本市においても、市民の皆様の命を守る手段の一つとして、令和6年度末に愛知県が水防法に基づく洪水浸水想定区域を更新することから、防災マップを更新し、全世帯への配布を行います。

また、岩作東島地区において狭あい道路の拡幅等に合わせて、同地域における消防水利充実のため、令和6年度に実施した設計に基づき、令和7年度に耐震性貯水槽を新たに整備します。

他にも、先ほどお話した文化の家や中央図書館といった公共施設に加え、過去に

整備した道路や橋梁の老朽化対策についても、取り組まなければならない大きな課題として考えており、令和7年度においては、これまでの調査で長寿命化が必要とされた5つの橋について、修繕工事を実施していきます。

加えてハード面の整備については、依然として人口増加が見込まれる下山地区及び西原山地区の住民の皆様が安心して生活ができるよう、下山交差点から下山橋にかけての東側歩道を連続的に整備するための調査等も実施していきます。

(市民から信頼される市政の運営)

新年度予算の概要をお話した際にも触れましたが、本市は現在、経常的経費の増加により、これまでの事業の大幅な見直しを迫られており、事業の見直しを進める中では、職員がこれまで以上に効率的に業務を進めるために、業務のIT化・DX化も欠かせないと考えています。

その一つとして、これまでに導入したシステムの全庁的な見直しについても取り組んでいくことが重要であることから、令和7年度には、各課で導入してきたGIS(地理情報)システムを1つに統合し、経費の削減に取り組んでまいります。

また、指定管理者の株式会社長久手温泉が運営する「長久手温泉ござらっせ」に関して、この4月からPFIコンセッション方式により、新たな民間事業者が運営することとなりました。これに伴い、2階浴室の特定天井の改修を行うとともに、民間事業者の運営内容を随時モニタリングするための委託を行ってまいります。

本件は、本市における初のPFI方式による施設運営となりますが、これまで以上に市民の皆様が愛される施設になるよう、民間事業者の経営ノウハウを活かして、より一層のサービス充実を図っていきたくと考えています。

(おわりに)

以上のように、厳しい予算編成のもとにおいても、民間事業者や関係機関との連携を強化しながら、多様な事業を展開し、市民の想いが反映されるまちづくりを推進してまいります。

去る1月12日には、「二十歳の集い」を初めてモリコロパークで開催しました。式典後には、愛知県及び株式会社ジブリパークのご協力を得て、参加者の皆様をジブリパークへ招待し、共に育った仲間と楽しい時間を過ごしていただきましたが、この取組は、多くの参加者からご好評をいただくとともに、テレビや新聞などのメディアにも取り上げられ、本市のPRの貴重な機会となりました。ジブリパークへの招待は、令和7年度にも引き続き実施していきたくと考えています。

令和7年度は、5年に一度の国勢調査が実施される年です。本市は現在、日本で最も平均年齢が若いまちであり、その魅力である歴史や伝統、そして若さあふれる活気を積極的に発信してまいります。「子どもがすくすく育つまち」「高齢者に優しいまち」

「誰もが希望をもてるまち」「文化芸術・スポーツのまち」「自然環境を大切にするまち」の実現に向け、一步一步着実に前進し、市政運営に取り組んでいきます。

さらに、将来にわたり本市が安定した財政運営を維持できるよう、令和7年度はこれまで以上に自治体としての「稼ぐ」視点を持ち、積極的に取り組んでまいります。

以上、新年度における施政方針と当初予算案の概要、並びに市長としての所信の一端を述べさせていただきました。市民の皆様、そして議員各位のご理解とご支援、ご協力を心よりお願い申し上げます。